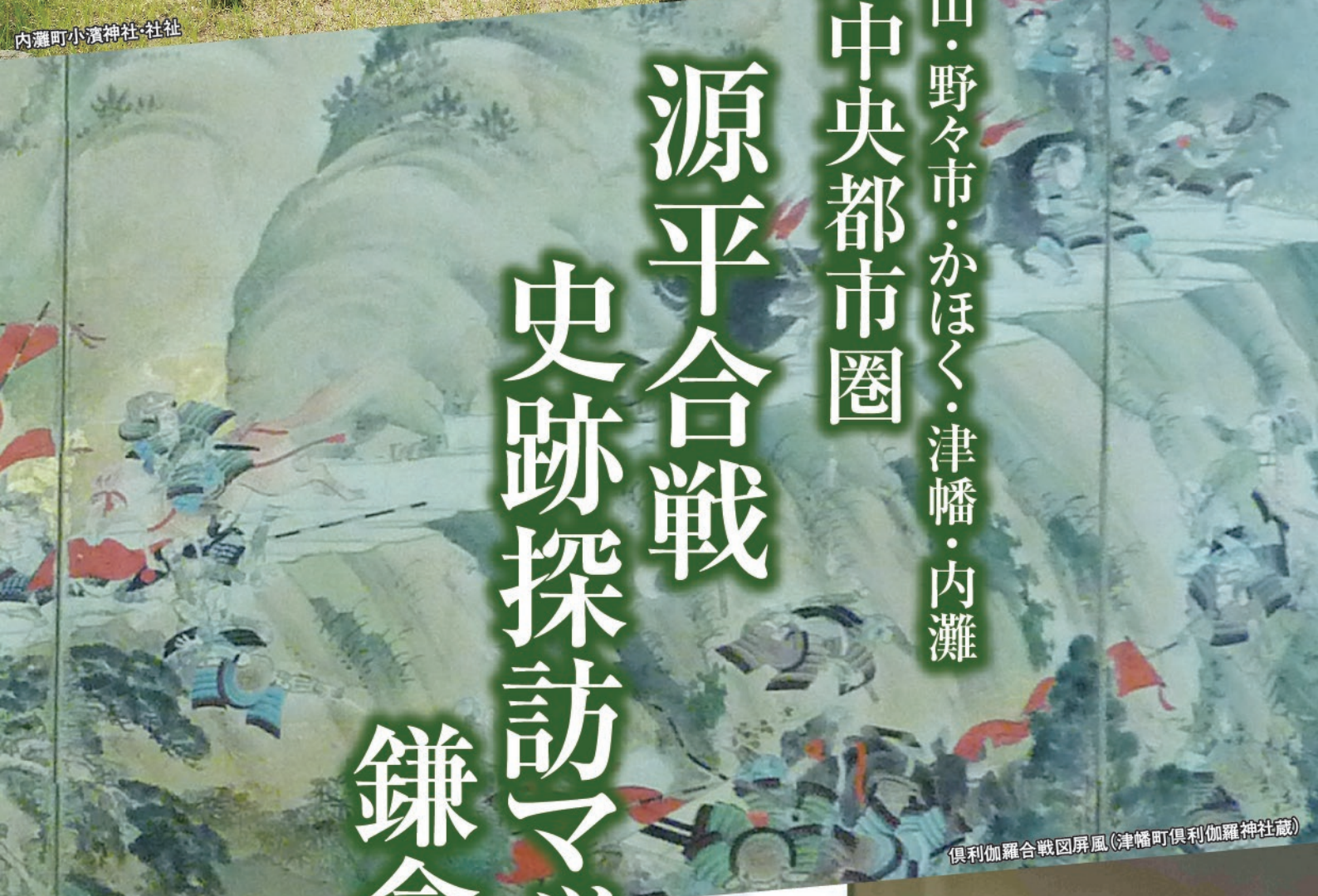
内灘町小濱神社・社祉

かほく市加茂神社

金沢・白山・野々市・かほく・津幡・内灘

石川中央都市圏

源平合戦 史跡探訪マップ 鎌倉時代


俱利伽羅合戦図屏風（津幡町俱利伽羅神社蔵）

白山市かたがり地蔵

野々市市富樫館跡

金沢市堅田館跡ジオラマ（石川県立歴史博物館蔵）

概要　源平合戦と鎌倉時代

◆史跡から見た平安時代末～鎌倉時代の北加賀

治承・寿永の乱（源平合戦、1180～1185年）の影響はこの北加賀地域にも及んでおり、北陸の武士が大きく関与している。その頃の有力者の館跡等と考えられている遺跡としては、金沢市大友西遺跡や同畝田・寺中遺跡、野々市市扇が丘ハワイゴク遺跡、同堀内館跡、白山市三浦幸明遺跡などがある。これらの遺跡からは、大型建物や堀、中国産白磁などが発掘されており、当時の有力者階層の様子を知ることができる。また、同乱で活躍した木曽義仲が布陣したと伝わる山城が加賀・越中国境付近に多く確認できる。金沢市堅田城跡と松根城跡では、13世紀頃の土師器皿が出土している。堅田城のものは、義仲の頃に遡る可能性があるが、その頃の山城については不明な点が多い。

鎌倉幕府が成立した後に起きた承久の乱（1221年）後に鎌倉幕府の影響力が全国に及ぶようになった。東国の武士が北加賀を含む西国に所領を持った（西遷御家人）が、金沢市堅田館跡では、13世紀中頃に造営された約一町（約110m）の堀で囲まれた遺構が見つかっており、高級陶磁器などが出土していることから、御家人との関係が指摘されている。他にも白山市宮永ほじ川遺跡や同宮保館跡などが同時期の館跡であるが、宮保館は伝統的な北加賀の武士である宮保氏の館と推定されている。

◆源平合戦

平治の乱（1160年）により、大きな政治力を握った平清盛は、武士としては初めて太政大臣に任じられ、日宋貿易などで経済基盤を確立し、日本で初めての武家政権を打ちたてた。しかし庇護者であった後白河法皇との対立が深まると、公家や寺社、武士などの各方面から反発を受けることとなる。

治承四年（1180）、後白河法皇の第三皇子である以仁王が平家追討の令旨を発し、挙兵した。以仁王自身は敗死したが、各地の平家に反発する武士はこれに呼応し、相次いで挙兵した。信濃の木曽義仲もその一人である。翌年、横田河原の戦いで平家方の城氏を破り、越後から北陸道へ進み、北陸地方の武士を取り込みながらその勢力を拡大した。

寿永二年（1183）5月11日、北陸道を京都へ向かう義仲軍と、それを迎え撃つ平維盛軍が越中・加賀の国境でぶつかった。源氏平家ともに軍を二手に分け、一方を志雄山に、そして主力を倶利伽羅峠付近に集めた。『源平盛衰記』によると、倶利伽羅峠の源氏方は4万1千、平家方は7万であった。

義仲は、小矢部の埴生八幡宮で戦勝祈願をした後、黒坂口に陣を敷いた。一方、平家軍は倶利伽羅峠頂の猿ヶ馬場に本陣を置き対峙した。

日中の戦いは矢合せに終始し、夜を迎えた。義仲は軍を七つに分け、林氏や富樫氏など加賀の武士たちの手引きによって、平家軍の背後、竹橋口などに兵を回した。前後から挟み撃ちにあって平家軍は大混乱に陥り、逃げ場をなくして深い谷底へ落ちていったという。『源平盛衰記』では、この奇襲の際、角に松明を付けた牛500頭を平家軍へ追い込んだと記されている。その有様を『平家物語』では「親落とせば子も落とし、兄落とせば弟も続く。主落とせば家の子、郎党落としけり。馬には人、人には馬、落ち重なり落ち重なり、さばかり深き谷ひとつ、平家の勢七万余騎で埋めたりける。」と記されている。このように戦いは源氏方の一方的な勝利で終わり、平家方は清盛の七男である平忠度が討死するなど大きな被害をこうむった。

倶利伽羅峠周辺にはこの戦いの激しさをあらわすように、「地獄谷」「膿川」などの地名が残っている。

木曽義仲は一気に京へと駆け上り、平家は都から落ちていくこととなるが、源平の争乱の中でもその大きな転換期となった戦いである。

◆北加賀の武士団～林氏

林氏は、平安時代の民部卿藤原時長の子で鎮守府将軍藤原利仁の後裔として登場する（南北朝・室町時代に書かれた『尊卑分脈（そんぴぶんみゃく）』による）。源平争乱頃には、斎藤氏を名乗り、その始祖は12世紀初め頃の人物とされる貞光（さだみつ）であり「林介（はやしのすけ）」を称した。彼は、任用国司を務め、その後、拝師郷（林郷）の郷司職を保有し在地化し加賀国の開発にいそしむ。その二人の子息である光家（みついえ）は、手取川扇状地へ、「加賀介」を名乗る成家は小松市板津を拠点とする。

いずれも、現在に林の地名を伝承した。手取川扇状地においては、野々市市上林・中林・下林、白山市倉光町、林中地区（剣崎町など）、林地区（部入道（ぶにゅうどう）町、知気寺（ちきじ）町）、蔵山（くらやま）地区（日御子町、月橋町）など中流域から上流部にかけて多くの伝承地がある。

史跡と詳細マップ

❶ 賀茂神社

かほく市横山リ119番地1

平安後期、朝廷が京都の上賀茂神社に寄進した荘園「金津」（現かほく市域大半）の全体の鎮守。南北朝や応仁の乱に戦乱を避け、京都から上賀茂神社のご神体が遷座しました。葵祭の競馬の費用を負担したので、現在の競馬神事にも「金津荘」の名が使われています。運動の上達、必勝祈願、除厄、水・稲作の神として敬われています。

❷ 津幡城（町史跡）

津幡町清水リ1

平野の中の独立丘陵であり、寿永2年（1183）の源平合戦の時に、平維盛がここに陣を敷いたことに始まる。本格的な城としては天正12年（1584）、前田利家が越中の佐々成政に対する拠点として整備しました。末森合戦の際に、ここで軍議を開いたことが記録に残っています。その後、佐々が国境から撤退したため、城としての役割を終えました。

❸ 平知度の首塚

津幡町字津幡地内

平知度は平清盛の七男にあたる武将。倶利伽羅合戦の際、当初は志雄山方面に布陣していましたが、平家軍劣勢の報を聞き、倶利迦羅へ駆け付けたという。激しい戦いの末、この地で自害したとされています。源平の戦いにおける平家一族最初の戦死者であり、『源平盛衰記』には、その勇猛な最期が描かれています。

❹ 倶利伽羅不動寺（長楽寺跡）

津幡町字倶利伽羅リ2

養老2年（718）、元正天皇の勅願により、善無畏三蔵が倶利迦羅不動明王の尊像を奉安され、弘安3年（812）に弘法大師により開山されたと言われています。しかし、倶利伽羅峠では、源平の戦いや承久の乱、一向一揆や前田と佐々の戦いの舞台となり、戦火に遭いました。廃仏毀釈により衰退した長楽寺を、戦後再興したのが現在の倶利迦羅不動寺です。

❺ 倶利伽羅古戦場

津幡町字倶利伽羅リ2

寿永2年（1183）に、木曽義仲率いる源氏軍と平維盛率いる平家軍が戦った古戦場。加賀武士団を取り込んだ源氏軍が、地の利を生かした奇襲攻撃によって、平家軍を打ち破りました。『源平盛衰記』によると、この時源氏は角に松明を付けた牛5百頭を平家軍に追い込む作戦をとったとされています。戦いに勝利した義仲は、その勢いで京に上りました。

❻ 北国街道倶利伽羅峠道（県史跡）

津幡町

倶利伽羅峠は、古来より近世における加賀・越中の国境に位置する交通の要衝で竹橋から山森を経て、倶利迦羅へ至ります。そのうち約1.9㎞の尾根伝いの道は、大幅な改修がなされておらず、江戸時代の雰囲気を今も残しています。沿線には、龍ヶ峰城跡や道番人屋敷跡など、街道関係施設があります。平成21年石川県史跡に指定されました。

⑦ 小濱神社・社祉（町史跡）

内灘町字宮坂ぬ365番地

小濱神社は日本海の浸蝕による海岸線の後退や飛砂等のため社地の移転がしばしばあったと記録されています。加賀の守護富樫氏の崇敬が篤く、長享年間の一向一揆にあたり、小濱神社の神主は富樫氏に従って戦ったと伝えられています。

⑧ 堅田城跡（市史跡）

金沢市堅田町

標高113mの尾根先端部にある戦国時代の山城跡。木曽義仲が陣を構えたとの伝承があります。発掘調査では、弥生時代後期、古墳時代末期、鎌倉時代、戦国時代の土器や陶磁器が出土。櫓台や堀切など防御施設の保存状態が良く、頂上からの見晴らしが良好です。鎌倉時代の土師器皿は木曽義仲の頃に遡る可能性があります。

⑨ 堅田館跡

金沢市堅田町

鎌倉時代の館跡。発掘調査で、館を囲む堀とその内部に大型建物や井戸、溝などが見つかりました。また堀跡からは、高級中国産陶磁器や赤色漆絵が描かれた漆器、般若心経と年号などを記した巻数板という木簡が出土しました。遺跡は山側環状道路建設により大半が失われましたが、石川県立歴史博物館でジオラマが展示されています。

⑩ オヤシキ跡

金沢市大浦町飛地

金沢市月浦町と神谷内町背後の丘陵尾根上にある遺跡。井上源左衛門、林新介の館跡と伝わっています。遺構の形状からは、館跡もしくは寺院跡などの可能性が指摘されています。オヤシキと呼ばれる大きな平坦地には巨大な土塁が築かれ、その周囲には小さな平坦地及びババと呼ばれる緩斜面、ウマアライイケ、ジュンサイイケと呼ばれる池跡が残されています。

⑪ 松根城跡（国史跡）

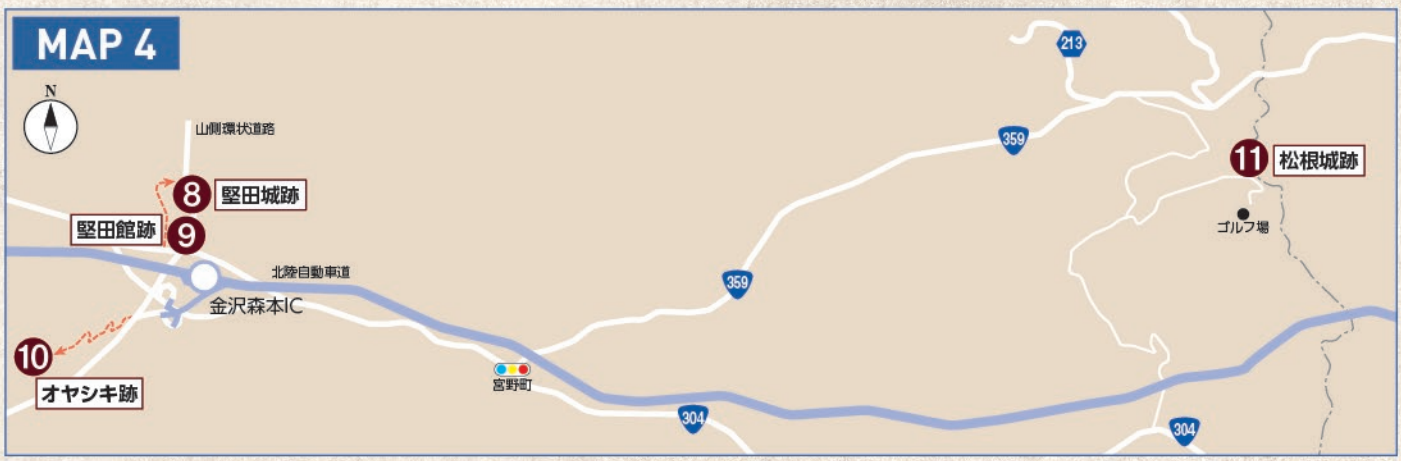
金沢市松根町レ5番外

加賀と越中の国境となる砺波丘陵の最高所（308m）に築城された東西約140m、南北約440mの規模をもつ山城で、木曽義仲が布陣したと伝わります。発掘調査で16世紀後葉の城跡とわかりました。西端の幅約25mの大堀切により尾根上の道跡（小原越）が切断され、小原越を戦時封鎖するなどした、天正12年（1584）頃の佐々成政方の城跡と推定されています。

⑫ 鳴和の滝（鹿島神社）

金沢市鳴和ク117甲

鳴和の滝は、近くの岩の上で加賀の守護富樫氏と安宅の関を逃れた源義経らが酒宴を催し、弁慶が一曲を奏で「鳴るわ滝の水」と詠ったと伝わります。これが「鳴和」の地名の由来とされています。鹿島神社は木曽義仲の南下の折及び一向一揆による兵火により罹災したと伝わります。



⑬ 平岡野神社

金沢市広岡町1丁目11番1

木曽義仲軍が倶利伽羅で平家軍を破った後、追討する道程で、現在の平岡野神社のある辺りに陣を敷いたと伝えられています。平岡野神社は、山王の社又は山王明神と称されていました。源平盛衰記によれば、この地が戦場とされて社が荒廃しましたが、加賀の守護富樫氏により崇拝され、足利尊氏が武運長久を祈願しています。

⑭ 大野湊神社

金沢市寺中町ハ163

神亀4年（727）に猿田彦大神を、既に鎮座していた神明社の傍らに勧請したのが始まり。この社を大野郷の湊の守護神とし大野湊神社と称し、藩政時代は歴代藩主の崇敬篤く、社殿の修築、社領を寄進されました。旧拝殿の「源平合戦図大絵馬」は日本一の大きさといわれ、加賀藩の絵師・松波景栄の作とされています。

⑮ 弁慶の力石・住吉の宮（市史跡）

野々市市本町2丁目14番6

弁慶の力石は、住吉の宮（布市神社）の境内にあります。源義経が奥州へ向かう途中、富樫氏の館に立ち寄った際、家来の弁慶が余興としてこの石を軽々と放り投げたという伝説が残されています。この神社から北西約500mの若松町にはこの石が落ちたとされる「力石」の小字名が残っています。

⑯ 富樫館跡（市史跡）

野々市市本町2丁目307番1

富樫氏は、中世全般にかけて活躍した加賀を代表とする武士団です。手取川扇状地の北東に連なる富樫山地沿いにあった富樫郷（現在の野々市市と金沢市の一部）を本拠地とし、平安時代後期には野々市に館を構えたと伝えられています。

⑰ 弁慶の手形石・石の木塚（県史跡）

白山市石立町174番

四角柱状に加工された凝灰岩製の5基の立石から構成される塚です。立石とも呼ばれ、地名発祥の基となっています。ここを通りかかった弁慶がこの立石を動かそうとしたがびくともせず、立石の窪みはその際についた拳の跡という伝承があります。

⑱ 笠間神社

白山市笠間町1番1

敗走する平家軍を追撃する義仲軍が笠間神社付近にさしかかったところ、増水した比楽河（現在の手取川）に行く手を阻まれました。戦勝を祈願した義仲が、村の老婆の差し出したイッコ（煎り粉）を食べようとしたとき、水が無くて困りました。そこで自慢の強弓で地面を掘ったところ、清水が湧きだしたという伝承があります。

⑲ 林一族館跡（伝承地）

白山市知気寺町ホ33番地

白山市知気寺町の西側に公園があり、「林一族館跡」として保存されています。昭和2年の『石川縣石川郡誌』では、「礎石等により館址たること歴然たり、ふつうこれを六郎城という」と記されています。

⑳ 六郎塚（六郎杉、市史跡）

白山市日御子町ハ40番地2

林光家の子で林六郎と名乗った光明の墓と伝わります。光明は、平氏追討の義仲軍勢に加勢し、京へ進軍しました。平成元年までは、直径5m、高さ1mの塚の上に老杉が生い茂った景観でした。老杉は「六郎杉」と呼ばれ、一株から三幹に分離しています。芥川賞作家高樹のぶ子の小説「透光の樹」で紹介されています。

㉑ 金劔宮

白山市日詰町巳118番地5

中世以来白山七社の一つに数えられ、白山本宮・三宮・岩本とともに本宮四社といわれていました。倶利伽羅峠の戦いにて平家を打ち破ったのは白山神の御計いとして、木曽義仲は金劔宮に馬20頭、白山比咩神社に林六郎光明所領の横江庄を寄進したといいます。境内には義経が腰掛けたといわれる義経腰掛石があります。

㉒ 波切不動明王

白山市鶴来今町レ部

今町の舟岡山の裾にある堂内に安置されている線刻の不動明王座像。刻面は平坦に仕上げられ、高さ約2.6m、幅約2.1m、厚さ約0.7m。風化による剥落が著しく、像の下半は十分に窺えません。元々は、かたがり地蔵と並んで舟岡山に掘られていましたが、明治32年に現在地に移されました。鎌倉時代作と考えられています。

㉓ かたがり地蔵

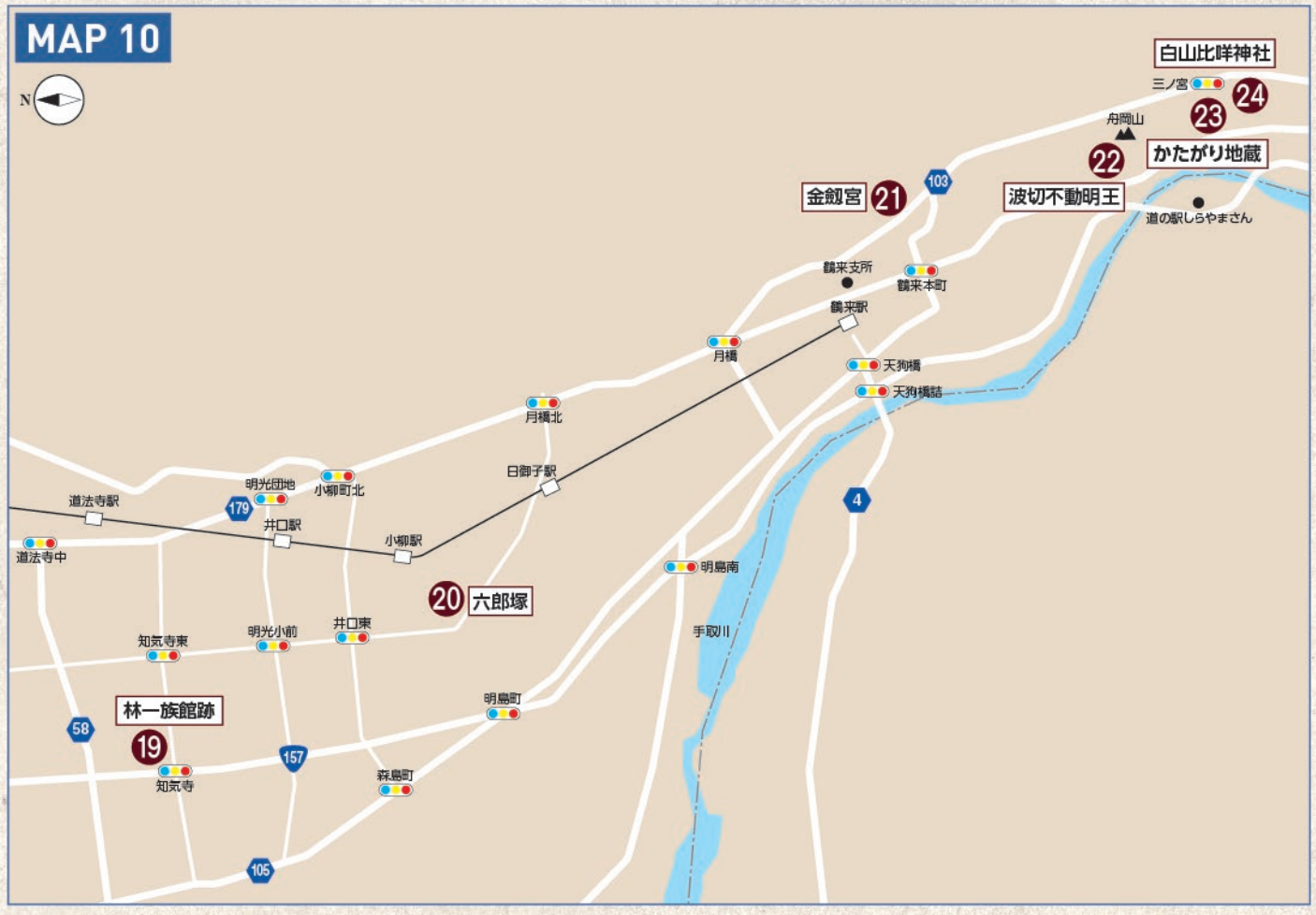
白山市白山町レ部

白山町の堂内に安置されている半肉彫の地蔵菩薩半跏趺座像。高さは約2.7m、幅約2.4m、厚さ約1.1m。もともと舟岡山に波切不動明王と並んで彫られていました。傾いた状態で彫られていたためこの名で呼ばれています。明治32年に切り取られ、現在地に移されました。鎌倉時代作と考えられています。

㉔ 白山比咩神社

白山市三宮町ニ105番地1

白山を神体山とする白山比咩神社本山。白山比咩神社が所蔵する（現在は県立美術館に寄託）重要文化財「黒漆螺鈿鞍」は林六郎光明が寄進したものといわれています。この他、当社が所蔵する「太刀銘長光」、「絹本著色白山三社神像」、「木造狛犬」（いずれも重要文化財）は鎌倉時代に制作されたものです。



㉕ 津幡ふるさと歴史館（れきしる）

津幡町字清水リ1番地1　TEL076-288-2101

津幡町の歴史について、縄文時代、弥生時代、津幡町加茂遺跡、加賀郡棒示札、倶利伽羅合戦、近世から近代、昭和の風景、民俗資料などの常設展示コーナーがあります。歴史館は町史跡の津幡城にあり、周辺の散策も可能になっています。

【主な中世の展示資料】
（中世）倶利伽羅合戦図屏風
庄ナカナシマ遺跡出土品
清水遺跡出土品
田屋森山遺跡出土銭

㉖ 石川県立歴史博物館

金沢市出羽町3番1号　TEL076-262-1836

石川県の歴史と文化をテーマとして、原始・豊かな自然と生業、古代・日本海を行き交う人々、中世・武士と一揆、近世・加賀藩の歴史と文化、近現代・近代国家と石川県、民俗・加賀・能登の祭りについて実物資料、ジオラマ、大型スクリーンによる映像、パネルなどでわかりやすく展示しています。

【主な中世の展示資料】
武士と一揆をテーマに、武家政権の成立から加賀の一向一揆へ、繰り返される戦乱の時代を生きた人々の姿に迫ります。金沢市堅田館跡ジオラマで鎌倉時代の加賀有力武士の館を復元し、併せて出土品を展示しています。

㉗ 金沢市新保本町埋蔵文化財収蔵庫

金沢市新保本町5丁目48　TEL076-240-2371

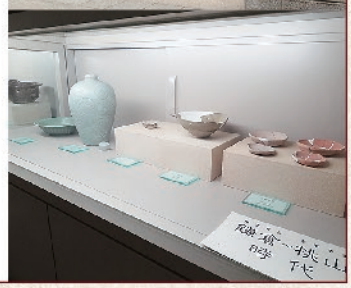
チカモリ遺跡から出土した大量の巨大な柱根などの出土品を保存するため、昭和61年に建設された施設です。1階は、チカモリ遺跡出土の柱根を保存するための水槽と金沢市内の縄文時代の資料を展示し、2階は弥生時代から江戸時代の遺物を展示しています。

【主な中世の展示資料】
- 鎌倉時代の館跡の広坂遺跡、室町時代の集落跡の無量寺遺跡出土品の展示
- 戦国時代の山城である国史跡松根城跡・切山城跡や朝日山城跡の出土品などの展示

㉘ 金沢市埋蔵文化財センター（金沢縄文ワールド）

金沢市上安原南60　TEL076-269-2451

平成9年に出土品の整理・記録作業を行う施設として開設しました。来館者が作業工程や出土品を見学することができます。平成27年にはチカモリ遺跡の柱根や重要文化財の中屋サワ遺跡出土品を紹介する金沢縄文ワールドが併設されました。



【主な中世の展示資料】
鎌倉時代の加賀の有力武士の館跡と考えられている堅田館跡出土品（市指定文化財）や鎌倉時代から南北朝時代の館跡の中屋サワ遺跡出土品を展示しています。

㉙ 野々市市ふるさと歴史館

野々市市御経塚1丁目549　TEL076-246-0133

昭和58年に縄文時代の大集落跡である御経塚遺跡出土品の展示収蔵施設として開館し、平成4年には、市内の主要遺跡の出土品等の展示と整理作業を行う施設を増築しました。館内には重要文化財「石川県御経塚遺跡出土品」のほか、市内の様々な時代の遺跡の出土品などを展示してあります。

【主な中世の展示資料】
加賀国守護富樫氏の古文書、富樫氏が描いたとされる馬の図、富樫氏庶流の館である押野館跡出土品、室町時代の集落跡・長池キタノハシ遺跡出土品、五輪塔地輪（紀年銘入り）などを展示しています。

㉚ 白山市立博物館

白山市西新町168-1　TEL076-275-8922

白山市の歴史・文化を紹介する総合博物館です。2階常設展では、昭和45年に横江町地内で発見された東大寺領横江荘遺跡荘家跡の荘家の一部が実物大で復元されているほか、ジオラマや出土遺物で遺跡の紹介をしています。

【主な中世の展示資料】
武士の登場をテーマに源平盛衰記の中の松任、蓮如の布教、加賀の一向一揆と松任、松任城についてパネル、実物資料などにより白山市の中世を展示しています。
考古資料は鎌倉時代から室町時代の館跡の宮永ほじ川遺跡出土品を展示しています。

史跡全体マップ

「源平合戦と義経伝説」、「白山信仰」、「台頭する武士団の館跡」の史跡を訪ねてみよう。

※本書は、石川中央都市圏（金沢市・白山市・かほく市・野々市市・津幡町・内灘町）が地域資源の魅力向上に向けて、圏域内の歴史資産の保存活用に連携して取り組む事業で作成したものである。

【発行】金沢市（文化スポーツ局　文化財保護課）
【編集】石川中央都市圏歴史遺産活用連絡会（金沢市・白山市・かほく市・野々市市・津幡町・内灘町）　【協力】石川県立歴史博物館
【お問い合わせ】金沢市埋蔵文化財センター　金沢市上安原南60番地　Tel：076-269-2451　Fax：076-269-2452
平成30年10月発行